

《序文》

最終号の発刊に当たって

本学は古くすみれ女子短期大学として発足、やがて愛知女子短期大学、ついで名古屋学芸大学短期大学部として約半世紀の伝統と歴史を築いてきました。その間、3万名を超える優秀な卒業生を社会に輩出し、わが国の発展を支えてきました。また、大学の使命として研究活動を推進し、その成果は毎年の研究紀要として残されております。

時代の流れもあり、短期大学部は志願者の減少が続き、規模の縮小、学科の改組など生き残りをかけ努力を尽くしてきましたが、残念ながら、昨年度学生募集を停止し、本年度をもって事業を完了いたします。

研究成果を世に問い、連綿と続いてきたその研究紀要（すみれ女子短期大学から愛知女子短期大学へかけて40号、名古屋学芸大学短期大学部として13号）は短期大学部の歴史でもあります。本年度の事業完了に伴い、ここに最終刊を迎えることになりました。誠に感無量なものがあります。

しかしながら、短期大学部の伝統は名古屋学芸大学に脈々として受け継がれ、未来へ向けて一層発展してゆくことでしょう。一応の締めくくりとして短期大学部研究紀要は幕を引きますが、この経過は是非、多くの方に知っていただきたいと思えます。

最終号の発刊に当たり、この研究紀要が果たした役割と未来へ向けての意義を強調し、序文とする次第です。

2016年7月



前学長 井形昭弘先生

名古屋学芸大学短期大学部

学長 井形 昭弘